

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院リハビリテーション科勤務18年	担当者	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. エネルギー代謝を説明できる。 2. 男女生殖機能を説明できる。 3. 国家試験対策として理解して暗記するを目標に、過去10年分の生理学問題を解きながら解答解説を行うことにより、問題に対する理解度と対応能力を高める。			評価方法			
授業概要	生理学Ⅰ、Ⅱで学習した内容の理解を深めると共に、実際に国家試験問題を解くことによって、知識の整理及び国家試験のための生理学の傾向をつかむ事ができる。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第5版(医学書院)	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	代謝と体温(P188～P193)	A栄養素 Bエネルギー代謝					
第2週	代謝と体温(P193～P198)	C体温					
第3週	生殖と発生・成長と老化 (P199～P205)	A男性生殖機能 B女性生殖機能					
第4週	生殖と発生・成長と老化 (P206～P213)	C受精、着床、胎児の発生 D成長と老化					
第5週	運動生理(P216～P218)	A筋力と持久力 B筋収縮のエネルギー源					
第6週	運動生理(P218～P223)	C運動に伴う全身の変化 Dトレーニングの効果 E加齢変化					
第7週	生理学分野の国家試験問題と 解答、解説(P225～P228)	核酸・細胞内小器官・細胞膜電位・その他					
第8週	生理学分野の国家試験問題と 解答、解説(P229～P232)	大脳辺縁系・骨格筋・運動単位・筋紡錘その他					
第9週	生理学分野の国家試験問題と 解答、解説(P232～P236)	心臓・呼吸運動・尿の生成・腎臓機能その他					
第10週	生理学分野の国家試験問題と 解答、解説(P236～P240)	内分泌・体温・老化・運動負荷その他					
第11週	過去10年分の生理学国家試験問題	問題を解いた後、解答解説で理解を深める					
第12週	過去10年分の生理学国家試験問題	問題を解いた後、解答解説で理解を深める					
第13週	過去10年分の生理学国家試験問題	問題を解いた後、解答解説で理解を深める					
第14週	過去10年分の生理学国家試験問題	問題を解いた後、解答解説で理解を深める					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国家試験基礎分野での重要な科目であり、復習を必ず行い資料を整理しておくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	精神障害評価学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当者	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.精神障害領域の作業療法の流れを理解する。 2.質的評価、量的評価の方法について理解する。 3.各評価実施後の評価のまとめ方について理解する。 4.目標設定、プログラム立案について理解する。			評価方法			
授業概要	精神科領域におけるリハビリテーションについて学び、その中での実践や理論等を通して理解できるようになる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神障害作業療法学 第3版	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	精神科障害に対する作業療法とは/精神医学の歴史						
第2週	精神科における作業とは/グループワーク						
第3週	精神科における作業療法評価とは/グループワーク						
第4週	精神科作業療法における評価の流れ						
第5週	観察(講義)/グループワーク(情報収集)						
第6週	情報収集(講義)/面接(グループワーク)						
第7週	面接(講義)/面接(ロールプレイ)						
第8週	テストバッテリー(LASMI)						
第9週	テストバッテリー(NPI)						
第10週	ICF及びその活用						
第11週	全体像のまとめと焦点化						
第12週	目標設定						
第13週	プログラム設定						
第14週	プログラム実施 における注意点						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業の復習を行う。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	精神医学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当者	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 精神科疾患の概要と特徴を理解することができる。 2 精神疾患の治療について理解することができる。 3 疾患と障害を併せ持つと言われる精神障害者について理解を深める。 4 精神疾患の理解しエンパワーメント活用することができる。			評価方法			
授業概要	精神医学の基礎知識の確認と国家試験を概観しての対策及び作業療法士として知識や技術をどう使いこなすのかについて学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT・OT精神医学、資料配布	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	統合失調症について1(統合失調症の概要を理解する事ができる)						
第2週	統合失調症について2(疾患の治療と経過について理解することができる)						
第3週	統合失調症について3(統合失調症に対するリハビリテーションについて理解できる)						
第4週	気分感情障害について1(気分障害の概要について理解することができる)						
第5週	気分感情障害について2(疾患の治療と経過について理解することができる)						
第6週	神経症性障害について1(不安障害や強迫性障害について理解を深めることができる)						
第7週	神経症性障害について2(パニック障害や社会不安障害等の理解を深めることができる)						
第8週	外因性精神病について(外因性精神病の特徴と概要を理解できる)						
第9週	てんかん(てんかん発作の種類と単純部分発作、複雑部分発作の理解ができる)						
第10週	認知症について1(アルツハイマー病と脳血管性認知症の理解ができる)						
第11週	認知症について2(レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の理解を深めることができる)						
第12週	物質依存について(アルコール依存症、薬物依存症について理解できる)						
第13週	摂食障害について(神経性大食症と神経性無食欲症について理解できる)						
第14週	精神科作業療法について(期末試験対策も含む)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	学習範囲が非常に広くまた精神科作業療法を行っていく上でも重要な基礎となる為、事前学習を怠らないこと						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	作業療法評価学Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当者	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 老年期の評価の概要について理解することができる。 2 老年期の評価の特徴について理解することができる。 3 信頼性・妥当性・再現性に基づく評価の実施ができる。 4 老年期の対象者への評価の実施方法について理解できる。			評価方法			
授業概要	評価の基礎と、高齢者領域での基本的な評価法を学び、作業療法実践に繋げていくことを学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト3作業療法評価学 資料配布	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳と脊髄の働きについて理解することができる						
第2週	中枢神経と末梢神経の整理(働きについて理解することができる)						
第3週	錐体路と錐体外路(働きと特徴を理解することができる)						
第4週	反射の仕組みについて説明ができる						
第5週	片麻痺機能検査について理解することができる1						
第6週	片麻痺機能検査について理解することができる2						
第7週	バイタルサインの重要性を理解できる						
第8週	上肢動作能力について理解を深めることができる1						
第9週	上肢動作能力について理解を深めることができる2						
第10週	協調性検査について理解を深めることができる						
第11週	ADL検査の重要性について理解することができる						
第12週	高次神経障害について理解することができる						
第13週	認知症評価①(認知症評価の概要を理解できる)						
第14週	認知症評価②(評価バッテリーを使用して認知機能検査を実施する) 試験対策						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	客観的視点に基づき、対象者にとって意味ある評価を実施することができる様、積極的に授業に参加すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	中枢神経系作業療法学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で整形外科・内科・外科勤務歴11年	担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①中枢疾患(脳血管障害, 頭部外傷), 整形外科疾患(脊髄損傷)等の各疾患の障害像を説明できる。 ②各疾患の作業療法評価およびゴール設定を組み立てることができる。 ③各疾患の作業療法アプローチを組み立てることができる。			評価方法			
授業概要	本講座では脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷に対する作業療法の基本的な介入について解説し、各疾患別による障害の症状や病態像、評価、作業療法介入・治療・訓練について学習する。また、各疾患に関連する基本的知識や、治療原理、社会サービスの適応についても学び、具体的な介入方法や基本技術を習得する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法技術ガイド 身体機能作業療法学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳卒中(1) P.162~P.168	脳卒中の概要、医学的治療と作業療法との関連について学びます。					
第2週	脳卒中(2) P.169~P.170	目標設定、目標達成時期、予後予測について学びます。					
第3週	脳卒中(3) P.169~P.170	一般的な評価について学びます。					
第4週	脳卒中(4) P.171~P.173	急性期プログラムについて学びます。					
第5週	脳卒中(5) P.173~P.178	回復期プログラムについて学びます。					
第6週	脳卒中(6) P.179~P.183	生活期(維持期)プログラム、退院後の生活について学びます。					
第7週	頭部外傷(1) P.185~P.186	頭部外傷の医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第8週	頭部外傷(2) P.187~P.188	目標と一般的な評価について学びます。					
第9週	頭部外傷(3) P.189~P.190	作業療法プログラムについて学びます。					
第10週	脊髄損傷(1) P.191~P.196	医学的治療と作業療法との関連について学びます。					
第11週	脊髄損傷(2) P.196~P.198	一般的な評価について学びます。					
第12週	脊髄損傷(3) P.198~P.201	急性期での目標とプログラムについて学びます。					
第13週	脊髄損傷(4) P.201~P.209	回復期での目標とプログラムについて学びます。					
第14週	脊髄損傷(5) P.209~P.213	社会復帰期での目標とプログラムについて学びます。					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系作業療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で整形外科・内科・外科勤務歴11年	担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①整形疾患の特徴を理解する。 ②整形疾患の作業療法を理解する。 ③整形疾患のプログラムについて把握できる。			評価方法			
授業概要	整形外科関連の対象に対して、疾患の基礎知識と作業療法評価、治療を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法技術ガイド 身体機能作業療法学ほか	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	廃用症候群 P.130～P.136	廃用症候群の引き起こす状況と身体への影響と対応について学ぶ。					
第2週	骨折(1) P.216～P.219	作業療法に関連する骨折に関する概要を学ぶ。					
第3週	骨折(2) P.219～P.221	一般的な作業療法評価について学ぶ。					
第4週	骨折(3) P.221～P.231	作業療法の目標とプログラムについて学ぶ。					
第5週	加齢性関節疾患 P.232～P.238	肩関節周囲炎・手指変形性関節症・変形性股関節症・変形性膝関節症の作業療法評価、指導、援助を学ぶ。					
第6週	末梢神経損傷(1) P.261～P.269	末梢神経損傷の種類と分類について学ぶ。					
第7週	末梢神経損傷(2) P.269～278	一般的な評価、アプローチについて学ぶ。					
第8週	全身性エリテマトーデス 多発性筋炎・皮膚筋炎 P.255～P.259	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎の概要・作業療法の関わりについて学ぶ。					
第9週	腱損傷(1) P.279～P.289	手指腱損傷の概要について学ぶ。					
第10週	腱損傷(2) P.289～P.297	作業療法プログラムについて学ぶ。					
第11週	熱傷(1) P.298～P.302	熱傷の概要について学ぶ。					
第12週	熱傷(2) P.302～P.309	作業療法プログラムについて学ぶ。					
第13週	重症筋無力症(1) P.347～P.348	重傷筋無力症の概要と評価について学ぶ。					
第14週	重症筋無力症(2) P.348～P.349	作業療法の目標とプログラムについて学ぶ。					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	作業療法評価学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で実習生指導勤務歴9年	担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①疾患の評価を把握できる ②疾患評価を実施できる ③疾患の評価の流れを把握できる			評価方法			
授業概要	作業療法士として、患者さまの状態を把握できることは重要である。基本評価と疾患特有の評価を学び、患者さまの状態を把握することを学ぶ。			期末試験 80% 授業態度 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準 作業療法評価学	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳血管障害・頭部外傷(1) P.274～P.285	脳画像・血圧・心拍・JCS・GCS					
第2週	脳血管障害・頭部外傷(2) P.285～P.298	ブルンストロームステージ・FMA・SIAS					
第3週	脳血管障害・頭部外傷(3) P.298～P.301	MAS・Rancho Los Amigos Hospitalの痙縮評価					
第4週	脳血管障害・頭部外傷(4) P.302～P.304	ICARS、SARA、Ten Second Test、WMFT、MFT、STEF					
第5週	脳血管障害・頭部外傷(5) P.305～P.307	HDSR、MMSE、SLTA、BIT、SPTA、VPTA、SDS					
第6週	脳血管障害・頭部外傷(6) P.307～P.313	FAB、BADs、WCST、MAL					
第7週	脊髄損傷(1) P.314～P.324	評価すべき項目を把握し、実演できる。 (ASIA分類・Frankel分類・Zancolli分類)					
第8週	脊髄損傷(2) P.324～P.329	評価のポイントを把握できる。					
第9週	関節リウマチ(1) P.349～P.354	評価すべき項目を把握し、実演できる。 (関節変形)					
第10週	関節リウマチ(2) P.354～P.371	フェイススケール・MHAQ・MOS36					
第11週	神経変性疾患(1) P.384～P.392	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症 の評価が出来る。					
第12週	神経変性疾患(2) P.392～P.398	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症 の評価が出来る。					
第13週	神経変性疾患(3) P.398～P.404	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症 の評価が出来る。					
第14週	重傷筋無力症 P.404～P.409	MGFA分類					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	高齢期作業療法治療学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	老人保健施設 非常勤 20年	担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 高齢期の身体的特徴を理解し、リハビリテーションに反映させることを目標とする。 2 認知症について深く理解し、臨床に反映させることを目標とする。 3 認知症における集団プログラムを理解し、即戦力を身に付けることを目標とする。 4 認知症の中核症状、周辺症状を理解することが出来る。			評価方法			
授業概要	高齢期とは何か、そして高齢期にみられる各障害に対する理解と、作業療法実践における知識を整理する。また、病気(疾患)と老化の違いを整理し、作業療法的視点での介入の仕方について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	「高齢期」作業療法とは(高齢期にみられる特徴とは)概要を理解する。						
第2週	老化の4原則(高齢期への適応)を踏まえ、老年期作業療法の特徴を理解する。						
第3週	現代社会と高齢化について(社会的背景を踏まえて)理解する。						
第4週	老年期の障害の特徴と問題について理解する。						
第5週	高齢者に多い疾患(認知症の概要)中核症状・周辺症状について理解する。						
第6週	高齢者に多い疾患(認知症の治療)アルツハイマー病、脳血管性認知症。						
第7週	高齢者に多い疾患(認知症への治療)レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症。						
第8週	認知症高齢者へのリハビリテーションのあり方について学習する。						
第9週	老年期障害と作業療法の特徴と効果について学習する。						
第10週	作業療法の役割と機能(集団プログラムを実施する際の留意点)について理解する。						
第11週	医療・福祉の枠組みと作業療法(作業療法の可能性)について理解する。						
第12週	作業療法の実際(論文や文献で確認をする)について理解を深める。						
第13週	認知症高齢者をとりまく社会資源について(フォーマル資源・インフォーマル資源)を含む。						
第14週	期末試験対策						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義前に、配布した資料スライドの確認すること。また、認知症に関する文献や論文を読み事前学習しておくこと						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	生活環境論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務14年	担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な基本動作・ADL動作に関する知識を修得する 2 作業療法士に必要な福祉用具・機器・住環境整備に関する知識を修得する 3 作業療法士として福祉用具・福祉機器・住環境整備の知識を用いてアプローチすることができるようになる 4 福祉用具・福祉機器・住環境整備の知識を事例に応用できるようになる			評価方法			
授業概要	障害者のノーマライゼーションに欠かせない生活環境を、地域における福祉用具・福祉機器の利用と住環境整備とに分け、わかりやすく教授し、住環境コーディネーター2級受験の足がかりの一助とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法学全書 福祉用具の使い方・住環境整備	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	生活支援の視点と方法、基本動作に影響を与える環境因子(教科書P1～P32)						
第2週	起居関連の福祉用具(教科書P33～P40)						
第3週	移乗関連の福祉用具(教科書P41～P51)						
第4週	移動関連の福祉用具①(教科書P56～P67)						
第5週	移動関連の福祉用具②(教科書P56～P67)						
第6週	褥瘡防止関連の福祉用具(配布資料)						
第7週	入浴関連の福祉用具(教科書P68～P71)						
第8週	排泄関連の福祉用具(教科書P78～P82)						
第9週	食事・更衣・整容関連の福祉用具(教科書P74～P76、P83～P88)						
第10週	コミュニケーション関連の福祉用具・福祉機器(教科書P98～P105)						
第11週	住宅改修・住環境整備(教科書P153～P184)						
第12週	疾患別の福祉用具利用例・住環境整備例(教科書P153～P184)						
第13週	事例検討(配布資料)						
第14週	期末試験対策						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の中で確認問題を実施していく。適宜復習を行っていくこと。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	リハビリテーション生化学・画像診断学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務14年	担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	①X線CT画像およびMRI画像に関する基礎的知識を習得する ②脳画像の読影法を理解する。 ③脊椎・骨画像の読影法を理解する ④胸部・腹部の読影法を理解する ⑤摂食嚥下画像の読影法を理解する			評価方法			
授業概要	作業療法士に必要なX線CT画像およびMRI画像の基礎的知識を習得する。また様々な疾患に対する画像読影法の基礎を習得する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた 他	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	画像読影の基礎知識①(教科書P2～P33)						
第2週	画像読影の基礎知識②(教科書P2～P33)						
第3週	脳の機能と構造①(教科書P34～P42)						
第4週	脳の機能と構造②(教科書P34～P42)						
第5週	脳の正常画像(教科書P43～P63)						
第6週	脳画像 疾患別読影①(教科書P64～P95)						
第7週	脳画像 疾患別読影②(教科書P64～P95)						
第8週	脳画像 疾患別読影③(教科書P64～P95)						
第9週	脊椎・脊髄の正常画像(教科書P96～P111)						
第10週	脊椎・脊髄の画像 疾患別読影(教科書P112～P129)						
第11週	骨・関節の正常画像(教科書P130～P149)						
第12週	骨・関節の画像 疾患別読影(教科書P150～P177)						
第13週	胸部・腹部の正常画像(教科書P178～P187)						
第14週	胸部・腹部の画像 疾患別読影(教科書P188～P213)						
第15週	摂食嚥下の正常画像 疾患別読影(教科書P214～P228)						
授業外 学習指示等	講義の中で確認問題を実施していく。適宜復習を行っていくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	地域包括ケアシステム	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務14年	担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 地域包括ケアについて理解をすることができる。 2 地域包括リハビリテーションについて理解することができる。 3 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割について理解する。 4 地域包括の中でMTDLPの実践例を理解できる。			評価方法			
授業概要	作業療法士が携わる地域包括リハについて理解する。			レポート 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	地域包括リハビリテーション実践マニュアル 生活行為向上マネジメント	使用器材	教科書、配布スライド				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	セラピストが地域で活動するための基礎知識(教科書P14～23)						
第2週	セラピストが地域で活動するための基礎知識(教科書P24～50)						
第3週	地域包括リハビリテーションマニュアル 乳幼児期(教科書P52～81)						
第4週	地域包括リハビリテーションマニュアル 学齢期(教科書P82～118)						
第5週	地域包括リハビリテーションマニュアル 成人期(教科書P120～173)						
第6週	地域包括リハビリテーションマニュアル 老年期(教科書P174～230)						
第7週	地域包括リハ はじめてワークブック(教科書P232～P278)						
第8週	作業療法初期評価のまとめ-治療目標-治療プログラム立案-考察(配布資料)						
第9週	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概要・解説						
第10週	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の事例検討(入院の事例①急性期)						
第11週	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の事例検討(入院の事例②回復期・生活期)						
第12週	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の事例検討(入所の事例)						
第13週	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の事例検討(通所リハビリテーションの事例)						
第14週	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の事例検討(訪問リハビリテーションの事例)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義の内容を理解して、文章でまとめられるように適宜復習を行っていくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	神経内科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での臨床勤務歴26年	担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.各神経内科疾患の特徴、病理・治療・リハビリテーションについて理解する。 2.神経内科、リハビリテーション領域で行われる、各種評価について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション分野で多くの比率を占める神経内科分野の疾患について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学専門基礎分野 神経内科学	使用器材	液晶プロジェクター DVD				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	神経学的診察						
第2週	画像診断と検査						
第3週	意識障害						
第4週	運動の障害 錐体路						
第5週	運動の障害 錐体外路						
第6週	構音・嚥下						
第7週	脳の代表的症候						
第8週	脳血管障害						
第9週	認知症・てんかん						
第10週	脳腫瘍・脳外傷						
第11週	変性疾患						
第12週	筋疾患						
第13週	神経系の感染症						
第14週	総括 復習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国試問題を疾患ごとに提示しますので各自で解いてみる。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	総合リハビリテーション学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での臨床勤務歴26年	担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命についての一般的知識と救急時の行動について理解する。 ・救急救命が必要な疾患、心電図、症状等を理解する。 ・サルコペニアとフレイルに対する知識及び対処法を理解する。 ・震災発生時のJRATの役割を知る。 			評価方法			
授業概要	必要に応じてDVDや実技等を指導する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作成した資料を利用する。	使用器材	DVD AEDその他				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	救命処置とは					資料	
第2週	JPS蘇生ガイドライン2015					資料	
第3週	心停止の予防					資料	
第4週	BLS(一次救命処置)					資料	
第5週	BLS(一次救命処置)					資料	
第6週	WHOの役割と予防医学					資料	
第7週	サルコペニアの理解					資料	
第8週	フレイルの理解					資料	
第9週	予防のための取り組み					資料	
第10週	災害におけるリハビリテーションの意義					資料	
第11週	災害におけるリハビリテーション(事例より)					資料	
第12週	災害時の初期対応					資料	
第13週	平時の対応(事前準備)					資料	
第14週	災害時の心理対応					資料	
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等							

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	機能解剖学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での臨床勤務歴26年	担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 上肢帯の骨の各名称を説明でき、触診ができる。 2. 下肢の骨の名称を説明でき、触診ができる。 3. 上肢帯の筋の名称を説明でき、触診ができる。 4. 下肢の筋の名称を説明でき、触診ができる。 5. 体幹の筋の名称を説明でき、触診ができる。			評価方法 定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	解剖学で学んだ上肢・下肢・体幹の骨・筋の知識を基に、人体での触診を実習することにより、実際に作業療法士に必要な触診技術、治療に必要なアプローチの仕方を学ぶ。						
教科書等	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢・体幹)	使用器材	実習衣、水性マジック				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	骨の触診 その1	◎ポイント:上肢帯の骨の触診					
第2週	骨の触診 その2	◎ポイント:上肢帯の骨の触診					
第3週	骨の触診 その3	◎ポイント:下肢の骨の触診					
第4週	骨の触診 その4	◎ポイント:下肢の骨の触診					
第5週	骨の触診 その5	◎ポイント:体幹の骨の触診					
第6週	筋の触診 その1	◎ポイント:上肢帯の筋の触診					
第7週	筋の触診 その2	◎ポイント:上肢帯の筋の触診					
第8週	筋の触診 その3	◎ポイント:下肢の筋の触診					
第9週	筋の触診 その4	◎ポイント:下肢の筋の触診					
第10週	筋の触診 その5	◎ポイント:体幹の筋の触診					
第11週	筋の触診 その6	◎ポイント:体幹の筋の触診					
第12週	靭帯の触診	◎ポイント:靭帯の触診					
第13週	疾患との関連性	◎ポイント:疾患との関連性					
第14週	疾患との関連性	◎ポイント:疾患との関連性					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	発達作業療法学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	発達障害児に対する発達支援経験あり	担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「子どもの発達」を理解する。 2 発達障害領域における作業療法の歴史を知る。 3 発達障害児者を取り巻く環境を理解し、作業療法について総合的に理解し説明できる。 4 発達障害における作業療法士の役割と社会的な位置づけを考える。			評価方法			
授業概要	定型発達について、運動発達及び社会性の発達など発達全般を学習するものである。発達障害領域での作業療法実践に必要な知識とその役割を総合的・体系的に学習するものである。			期末試験 90% 授業態度 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学	使用器材	PC、液晶プロジェクター、配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	発達過程作業療法学の基礎 (1)						
第2週	発達過程作業療法学の基礎 (2)						
第3週	発達過程作業療法の実践過程及び記録						
第4週	発達過程作業療法の地域支援						
第5週	運動発達論 新生児 生まれてから二足歩行に至るまでの運動発達を詳しく学習する。						
第6週	運動発達 2ヶ月～6ヶ月						
第7週	運動発達 7ヶ月～独歩						
第8週	手の発達 手の発達を姿勢の発達と関連させて学習する。						
第9週	社会性の発達 対人関係・言語・遊びについて詳しく学習する。						
第10週	食事動作の発達(1) 食事動作について演習する。						
第11週	食事動作の発達(2)						
第12週	子どもの描画について 検査方法のひとつとしての「描画」を学習する。						
第13週	感覚統合療法						
第14週	発達検査						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 授業内容を復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学 2年	科目名	高次脳機能障害作業療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院勤務で脳疾患、リハビリ系勤務歴20年	担当者	小淵 由美子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 高次脳機能障害は脳損傷から多様な症状が生じる。責任病巣と脳の機能局在と症状を関連づけて考えることができる 2. 機能回復のメカニズムである可塑性について理解し、患者の症状を踏まえた社会復帰まで見通した作業療法を考えることができる 3. 各論の症状のメカニズムを理解して評価や治療に取り組める			評価方法			
授業概要	作業療法の対象として重要性を増す高次脳機能障害の基礎を理解する。脳解剖や脳機能及び障害のメカニズムについて学習し、複雑かつ個別性のある症状に応じた評価・治療まで体系的に実施できる知識を学ぶ。			期末試験 : 90% レポート等 : 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	高次脳機能作業療法学第2版 医学書院	使用器材	配布資料等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	イントロダクション 脳損傷による高次脳機能障害の症状と大脳局在について概要を学ぶ。高次脳機能障害の主観的評価方法を実施する						
第2週	第1章 高次脳機能障害作業療法学の基礎 : 脳の側性化と利き手の関係と同一の場所が障害されても症状に違いがある脳の個別性を学ぶ						
第3週	第1章 高次脳機能障害作業療法学の基礎: 脳解剖と画像診断 脳解剖の基礎知識と大脳辺縁系と皮質下の核の解剖及び大脳辺縁系の役割について学ぶ						
第4週	第1章 III評価と治療の流れ: 評価と問題点の抽出の際の重要点や治療・指導・援助計画の立案、さらには地域生活への援助までの実践課程を学ぶ						
第5週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 III失語: DVD「失語症回復への道」視聴 症状や回復のメカニズムについて学ぶ						
第6週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 III失語: DVD「秘められた復元力」視聴 「脳の可塑性」神経ネットワークは発達・進化することを学ぶ						
第7週	第2章 高次脳機能作業療法 III失語のメカニズム: ウェルニツケリヒトハイムの図式を理解し失語タイプの分類を学ぶ						
第8週	第3章 高次脳機能作業療法に対する作業療法の実際 III失語事例から失語症者とのコミュニケーションを学ぶ						
第9週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 IV失行DVD視聴: 症状の特徴を理解する						
第10週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 IV失行のメカニズムについてリープマンの水平図式を学ぶ						
第11週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 IV失行DVD視聴: その他の行為の障害について特徴を理解し、責任病巣からメカニズムを学ぶ						
第12週	第3章 高次脳機能作業療法に対する作業療法の実際 IV失行 : 失行に対する作業療法を実施できるようになるため症例を通してその実際を学ぶ						
第13週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 V失認(障害認知の障害) 視覚失認のケースから作業療法での注意点や対応策を学ぶ						
第14週	前期総括・期末試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	高次脳機能障害は難しいと思われがちですが、動画など活用して理解が深まるように学んでいきます。 作業療法士として働く際に必要な分野です興味を持って学習して下さい						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	日常生活活動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動について、概念と各動作項目の構成要素を理解し覚える事ができる。 ・ADL活動分析ができる。 			評価方法			
授業概要	日常生活活動について、概念と各動作項目の構成要素を学ぶ。目標は、「心身障害のADLを理解、評価を行い、治療アプローチを行う」「国家試験に対応できる知識を習得する」です。			期末試験 80% 提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学 評価と支援の実際	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ADLとは？（概念・意義・範囲）						
第2週	生活関連活動						
第3週	ADL評価の重要事項						
第4週	プログラムに必要な情報						
第5週	活動の構成要素 食事, 排泄, 整容, 入浴, 更衣						
第6週	活動の構成要素 食事, 排泄, 整容, 入浴, 更衣 (活動分析)						
第7週	活動分析 発表						
第8週	活動分析 発表						
第9週	疾患別生活関連活動						
第10週	自助具について ふくふくプラザ見学						
第11週	自助具作成						
第12週	自助具作成発表						
第13週	コミュニケーションについての障害						
第14週	症例						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	ふくふくプラザ見学						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 2年	科目名	リハビリテーション薬理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	大学における薬理学実習等担当助教14年	担当者	山脇 洋輔	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	作業療法士として理解しておくべき薬理学的知識を、臨床的な視点から学ぶ。			評価方法			
授業概要	毎回講義用スライドを用いた授業を行う(講義用レジメも配布)。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック薬理学・臨床薬理学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	薬による疾患治療の本質						
第2週	薬の作用はどのように発揮されるのか						
第3週	薬の作用に影響を与える因子						
第4週	神経・筋疾患の薬物治療(1): 脳血管障害、神経・筋の自己免疫疾患						
第5週	神経・筋疾患の薬物治療(2): てんかん、神経変性疾患						
第6週	精神疾患の薬物治療: 統合失調症、気分障害、不安障害						
第7週	循環器疾患の薬物治療: 高血圧、不整脈、狭心症、心筋梗塞						
第8週	血液系疾患の薬物治療						
第9週	代謝疾患の薬物治療(1): 糖尿病とその合併症						
第10週	代謝疾患の薬物治療(2): 脂質異常症、痛風・高尿酸血症						
第11週	内分泌疾患の薬物治療: 先端巨大症、尿崩症、バセドウ病、クッシング症候群、アジソン病						
第12週	腎・泌尿器疾患: 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎結石						
第13週	感染症の薬物治療: 細菌、ウイルス、真菌、寄生虫						
第14週	疼痛の除去: 麻酔、モルヒネ、抗炎症薬の使用						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						